

● 研究発表要旨

ダンスの指導における一考察(1)

一 指導者の言語より 一

大島 敏
佐々木 昌代

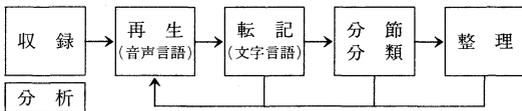
ダンスの指導において身体活動を媒体として表現性や創造性を伸ばす必要性は周知のとおりである。一方「教育における言語の機能と意義を問い直す必要がある⁽¹⁾」とするBollnowと、身体による表現を「動きの言語」として動きは限りない言語であり「ことば」からなる言語よりはるかに大きい⁽²⁾とするPrestonを考え合わせ時、教師の言語は学習者に無限の「動きの言語」として創造され表現され得るため、その重要さは意識せざるを得ない。しかし、実際に学習者に対して、どのように、どんな方法で進めるかは指導者に一任されている。

学習の場における「言語」は nonverbal communication を含めると

- 指導者の verbal communication, nonverbal communication
- 学習者の " " "

の4つの相互作用が考えられるが今回は高等学校のダンス指導者のverbal communicationを手がかりに分析検討し、その過程を明らかにするとともに今後の研究の指針を得ようとするものである。

<方法>



- 授業のねらいと流れ
- BalesのI. P. A. ● communication pattern
- 指導言語の時間系列 ● 抽出言語

<研究結果と考察>

表1は指導案ではなく、収録した指導言語から何をねらいどのような運びで授業を進めたかについてまとめたものである。(表1・次頁)

個人の特性を持ちながら一つの流れの意図のもとに進められ、観るを含んで時間内でまとめている。いずれも舞踊要因もしくは作品づくりをねらいとしている。作品づくりを除き個人で動く場面(個, G')が多く、それははじめ、なかの段階の動きを広めたり深めたりするところである。

総言語数(表2)、収録言語を息の切れ目で分節した結果で最高869語、最低491語(平均661語)である。バレーボールの授業では334語から61語(平均228語)

⁽⁴⁾と報告されていることからダンスの授業における指導言語は非常に多いといえる。また4D.プロフィールのA,B,C,DとN(分類不可)ではB,Cの値、特にBの値が高くDは殆んどみられない。つまり課題、特に正の課題領域に志向し「示唆を与える」「オリエンテーションを与える」等が多いことがわかる。

<ペイルズの相互作用過程分析のカテゴリ体系>

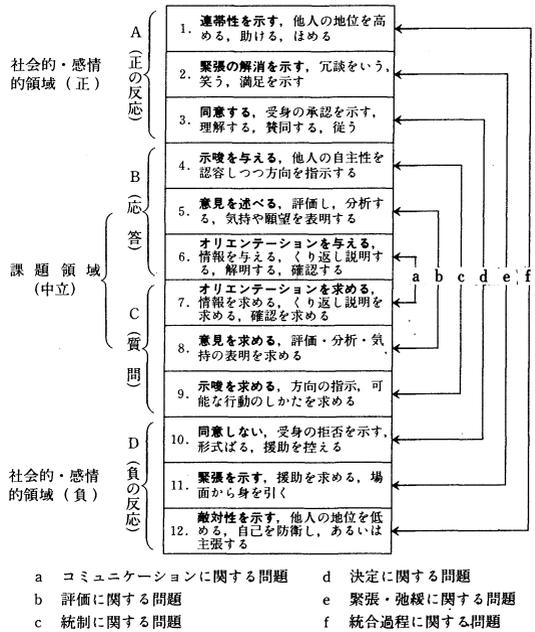


表2. 総言語数, 4Dプロフィール, コミュニケーションパターン

No.	総数	[No.]					[%]				
		A	B	C	D	N	w	g	i	s	
単元のはじめ	S 1	651	7.4	70.5	15.8	3.7	2.6	91.4	4.9	1.2	2.5
	S 2	869	6.1	64.9	23.7	2.1	3.2	35.1	61.1	1.2	2.6
単元のなか	M 1	662	6.8	73.9	13.4	0.2	5.7	74.0	11.0	9.9	5.1
	M 2	538	4.1	79.4	8.7	0.4	7.4	84.8	—	8.9	6.3
単元の終わり	T 1	816	2.8	88.1	7.6	—	1.5	89.3	6.0	3.2	1.5
	T 2	669	3.1	85.1	11.5	—	0.3	97.0	2.1	0.6	0.3
単元のおわり	Y 1	646	6.0	84.5	8.4	—	1.1	89.0	8.7	2.0	0.3
	Z 1	543	4.6	81.2	10.5	—	3.7	61.1	35.7	0.4	2.8
単元のおわり	Z 2	491	4.9	82.1	12.4	—	0.6	56.0	42.0	1.4	0.6
	K 1	567	3.5	76.6	19.4	—	0.5	61.4	35.8	2.5	0.3
単元のおわり	K 2	559	5.2	84.1	10.0	—	0.7	75.8	18.6	5.2	0.4

○ — 最高値 △ — 最低値

- w — 全体に対して発言されている言語
- g — グループに対して発言されている言語
- i — 個人に対して発言されている言語
- s — 教師自身に対して発言されている言語

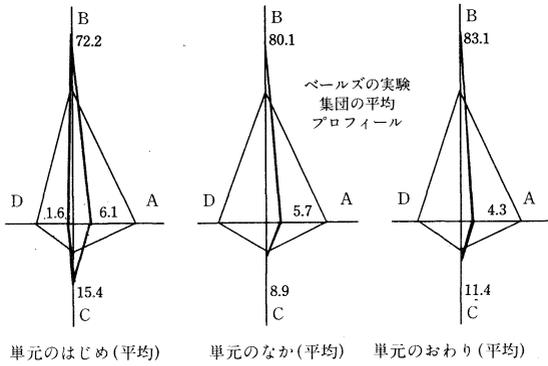


図1. 4D. プロフィール [%]

4D.プロフィール(図1)は表2に示した個々の授業の結果を単元の位置によって、はじめーなかーおわりとして平均したものである。いずれも Bales の実験集団の平均プロフィールに比べ、特に正の課題領域に志向している。これは今回指導者の verbal communication に限ったためで先に示した4つの相互作用を合わせれば Bales のそれに近づくのではないと思われる。

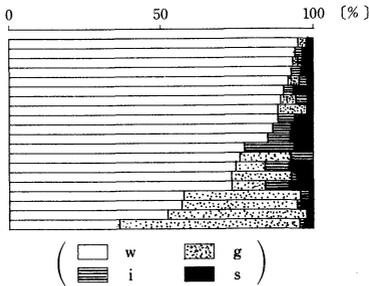


図2. コミュニケーションパターン

コミュニケーションパターン(表2図2)については一例を除いてwが50%以上をしめ(平均79%)ている。つまり全体に対して発言される言語の割合が高く、その内容を見ると「ファ〜と伸びてクルクル」「下の方から光が差し込んで来たらどうするかな」等個々の学習者なりに捕え、表わすことが出来る言葉が多いことから、指導者は本来学習者一人ひとりに言うべきところを共通な言葉全員になげかけて、個々の動きや考えを引き出そうとしていると思われる。

指導言語による活動状況(図3)は「はいどうぞ」「はいやめて」といった始め終わりの合図の言葉により指導過程の時間系列をみたものである。「作品にまとめる」段階で長く、その他では断続的な傾向がある。これを百分率で見ると動かそうとしているが20~79%(M49%), 観せ合いその他が7.2~59%(M16.3%), 説明は13~51.4%(M34.7%)である。

抽出言語(表3)は学習者の個々の動きを広め深める時動きの引き出しが特に重要なことから動きを引

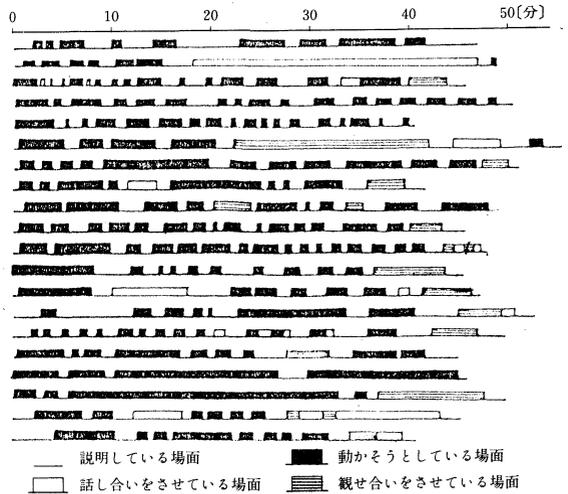


図3. 指導言語による活動状況

き出している指導言語を抽出し、直接的表情的、直接的非表情的、間接的表情的、間接的非表情的の観点から分類したものである。(表3は次頁)運動や感じを擬声・擬態語の速度や強度によって引き出そうとする分野を表情的とし、運動や感じをダンス用語によって引き出そうとする分野を非表情的に区分、更に運動が具体的に示されているものを直接的、運動を感覚として捕えさせるものを間接的とした。4分野とも動きを引き出し得る要素を含み表現性は勿論、工夫し、つくり、選択するといった創造活動に繋がる。故に指導者は常にダンス要因を踏まえた上で学習者に共通に、早く動きとして表現出来る引き出すための言葉を考える必要がある。正課体育に関する調査⁽⁵⁾においてダンス・表現運動を教えにくい(59.6%)とするその理由に「動きの引き出し方がわからない」とする者が多かった点でも今後の検討を要する。

以上から

- ・ダンスの授業では言語数が多く、BalesのI.P.A.では正の課題領域志向であったが、数量とともに内容すなわち質の検討を行なう必要がある。
- ・全体に対する共通の発言がみられたが、これは学習者個人の動きや考えを大切にしようとするためと思われる。
- ・ダンスの授業においては、動きを引き出す指導言語が重要な役割を果たすと考え、4つの分類を試みた。今後この方向で引き出しについて研究を進めたい。

注1 Bollnow, O.F. 著 森田孝訳「言語と教育」川島書店, 1975, p.1

注2. Preston, V. 著 松本千代栄訳「モダンダンスのシステム」大修館書店, 1976 p.6

注3. 表(ベイルズの相互作用過程分析のカテゴリー体系)参照

注4. 小林養子「体育の指導過程における指導者の言語的コミュニケーション」福井大学教育学部卒業論文

注5. 昭和54年6~9月, 実技研究会参加者について実施(福井県小学校教諭, 中・高校体育指導者 女子 104名)

表3. 抽出言語 (例)

表 現 的	
直 接 的	<p>○どっかへビュンと伸びる。 ○右の方へフ〜ッと浮いてみよう ○一本の木にいつばーいあっちからもこっちからもチクチクチク。 ○向こうの方へ光がサ——と差し込みました。 ○小さい小さいトゲがツンツンツンツンツンと痛い痛い程のツンツンツンとしたトゲが出るかもしれないよ。 ○ゆ〜っくりババババッと向く。 ○ササッと動いて上を向く。 ○両手開いてパ——とまわってみよう。 ○そう——っと上へあがる——。 ○グ——ッと洗みながら。 ○グワ〜と押してみたり一寸押してみたり。 ○クツクツと伸びて。 ○はい下まで——クシャ——。 ○空へとびたいな〜と思ったら思っきりとぶ! ○フア〜と伸びてクルクル〜。 ○とびあがっても ちょうだい、ちょうだい、ちょうだい! ちょうだい! ○パッと場所を変える。 ○タタタタタタッ はい上パッ! ○クルクルルツとまわりなさい。</p>
間 接 的	<p>○肩でもたたけるし胸でもたたけるね。 ○伸びる時は速いですよ。 ○方向とか高さが違うのね。 ○段々大きくな。 ○みんな上を向いたトゲばかりよ。 ○小さい草だけど あっち こっち。 ○下の方から光が差し込んできたらどうするかな? ○下向いたトゲも横向いたトゲもあるよ。 ○ゆ〜っくり3ッはやく。 ○頭から出ているトゲ、足から出ているトゲ。 ○あと5センチ。 ○大きさによって速いかもしれないよ、もっともつと速いかも知れないよ。 ○そこが上いからあとがついていくんですよ。 ○時々人と一緒に動いてみてよ。 ○上の方も下の方からも。 ○ねじったらゆ〜くり。 ○だんだん沈む。 ○速く動かしてもいい、ゆ〜くり動かしてもいい。 ○走ってもいいし、跳び上がってもいいし、転がってもいいし、まわってもいいし。 ○身体全部を使うことを忘れないように。 ○低い姿勢をして答えてあげることもできる。 ○少し後ろへ移動してもいいですよ。</p>
	<p>○ス——ッともどつて。 ○ヒュー——ツファッ。 ○もう一回曲線でギューンといったら直線でビシャッともどる。 ○ギューン——といってキュンともどる。 ○ズ——ツビュッ。 ○ツクツクツクツとでています。 ○くるッとひっくり返って空向く——ウ。 ○サ〜ッと差し込んだらパッと。 ○グ〜ウ〜。 ○パ——と差し込んだらフア——。 ○屈折した光は又、どこかを照らすんですよ。 ○ビュンとしたトゲだってあるんじゃない? ○フア〜ン フア〜ン フア〜ン フア〜ン。 ○フア〜ン ポンポンポンン フア〜ン フア〜ン フア〜ン アッ! ○グ——とグ——とグ——とグ——とグ——もつともつともつともつ……ビシャ! ○下さい、下さい、下さい、下さい——。 ○ササ——ッパ——シュ〜。 ○できるだけ柔らかいところとパツとなったところの違いが動きの中に出てくる。 ○つま先で雲の上を走るように軽く。 ○ズ——ッと気持をこめていって。 ○さあ走って行ってパ——と感じ合ってみる。 ○いい香りいい香りいい香り。 ○スピードの変化思い切り出せるようにね。 ○ここ全部自分のもの。 ○ピロピロとした曲線でもどれるよ。 ○色んな空間。 ○中途半端な動きにならないように。 ○はい直線。 ○自分の体がガラスですよ。 ○とぎれないようにね。 ○移動してもいいよ。 ○光は差し込んで屈折する。 ○面かえながら。 ○こなこなになって割れるよ。 ○浮いて浮いて浮いてっていうとつらいですから浮いた分だけ戻す。 ○自分の好きな空でいいよ。 ○はっきり動きましょう。 ○好きなとこでいいよ。 ○何をしてもいい。 ○相手を感じてまわるんですよ。 ○細い光もあるかしらんですよ。 ○自然に。 ○楽にして。 ○ここが死んでしまったらあかんよ。</p>
	非 表 現 的